京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金廿五錢●三ヶ月前金[illegible]▲六ヶ月前金[illegible]▲郵稅一月金[illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆　十一月十二日
發行兼編輯人 印刷人　山下英[illegible]
京城西署西小門通
發行所　京城新報社
電話六六三

北老爺嶺(山脈)大森林及雪中縱斷記(六)

黑衣仙

▲雪と氷の陣を破りて

濛江大甸子は芦河、湯河、珠子河の一に合する所ろ、七百米及千米方の面積を有する林間の空地に建てり、三支流は源を哈蜜河岑に發し茲に至つて一に合し東流して湯河口に於て松花江に入る、何れも小川なれども伐木の爲めには多少の便を與ふるものと云はゞ云ふべきである、大甸子が拓けたのも川のお蔭と云つて可い、開墾は光緒十四五年頃に始めて着手せられ今を距る六年前に同知衙門を置く、即光緒二十六年の事で目下此附近に空屋多く稍衰退を極めた理由は、別でもない、光緒二十四五年頃には馬賊の災害に遭ひ、又光緒三十年日露戰爭の交露兵の蹂躙するところとなつた爲めで有る、東西五百清里南北三四十清里の間は濛務同知の管轄内にあつて、材木人蔘、木茸(蘑枯)を産するの外、鬱々たる大森林地方で、大して重要な土地柄でない、勿論人烟稀薄、氣候嚴峻、降雪は尺四五寸も有り冬は交通殊に不便で、材木、人蔘、蘑枯を樣子哨、黑石頭、船廠、昌都、朝陽鎭、奉天等に仕向け、日用物品は悉く樣子哨に仰ぎ官街方面から極少數を仕入るゝ事が有るばかりで、鳥渡でも覗いて見るほどの價値ある所でない。

大甸子に於ける一日は實に不愉快な滯在で有つた、今まで馱馬を伴れて來たのを、茲で繼ぎ變ゐて、之からは爬犂を用ゐる事に仕た、馱馬を返すには今迄の賃金を仕拂つて遣らんければならぬ、爬犂三臺を備入れ糧食も濟んだ所で賃金を拂渡し荷物の率領などに世話を燒いて居ると、一人の馬夫が泡立たしう驅込んで來て、把頭(苦力頭)が賃銀を橫領して自分一人には分配して吳れぬ、と泣く〳〵訴ゐて來た、そこで之れ捨置き難き大事なり、早く追驅けて苦力頭を懲らしめ遣らん、それ面白ろしと、云うより早く、血氣に逸る一行中の二三の者、銃に丸込めて逃げなば打ちも仕兼ねまじき權幕凄まじう、行きしと思ふ間もなく歸り來りて、仕たり面に勢ひ荒々しく見れば苦力頭を高手小手に縛めて引据ゐたり、之より殘忍酷薄なる拷問の幕は開かれ、或は氷の如き水を腦天より注ぐものもあれば雪を攫んで面に投付くるものもあり、拍つ殴ぐる、蹴る仕末に先方は聲も得立てず、辨解も聞けばこそ、事ぬれかし、鐵拳を喰はせんと逸りにはやる手合のみなれば、鬼をも取挫ぐべき荒男も、有繋弱り果てゝ今はたゞ虫の息氣に只管ら救を請わはれさ、かゝる仕打を理想派の小說家に見せたらばアントン、チエーホフが『現代の露士亞人』にも劣るまじき一大雄篇を物さんとも知れがたし、多勢を恃み強さを矜る日本人にもさすが情けはありと見ゐ、中の一人二人、餘りの仕打に他を慰めて事の仔細を聞取るに前に急を告げたる者こそ却つて心惡き奴輩なれば、火の手は又も燃ゐあがり今度は此方に飛火して散々に打着し、双方共打かれ損になりて引取り、鼠の如く後をも見ず前來し道に引返したり、一行は之にて胸を下したりと云はんばかりに、いよ〳〵鼻息あろう、滯在の明くる日、即ち十二月五日午前九時と云うに又もや氷と雪の陣を破りて冬の暴主の威にも怯ちず、老爺草の無人境を差して急ぎゆく。(つゞく)

高粱の話

日本に於て生長せし我儕は、今日迄食料の穀類としては、米麥及び粟等の外に食膳に上したる事なしと雖、滿洲土人の日常生活は頗る之に相違し、彼等は稷、玉蜀黍、粟及び高粱を以て常食物とするものなり今此高粱に關して極めて簡單なる說明を試みんとす

高粱は高黍、高粮又は紅粮と稱して、滿洲土人缺くべからざる食料品なり、大凡滿洲內地都鄙到る處、糧行なるもの有らざるはなし、蓋し高粱を販賣するの謂にして恰も我國にて穀物商を米屋と通稱すると一般なり高粱に二種あり粳と糯とに區別す、粳を蜜高粱と云ひ糯を粘高粱と呼ぶ、其色に褐色、黃色、紅色及白色等あり、就中黃紅の二種最も多く耕作されて普通一般の食料とさるゝなり

斯の如く滿洲人の主要食品なるを以て高粱は滿洲各地何處に到ると雖耕作せられざるなくして新民屯、遼陽、懷仁及び通化地方より北の方海龍府孤楡樹、吉林府、長春府、奉化縣、鐵嶺、奉天、哈爾賓、呼蘭廳、齊々哈爾、琿春、寧古塔、伯都納附近に至るまで殆んど產出せざるなし、實に全滿洲農產物中にありては太宗の位置を占むるなり

其耕作の方法は、遼西南部にありては淸明の節前後、又遼河流域及滿洲東北部に於ては、穀雨節後即ち早きも四月中旬より遲きは五月上旬の頃を以て播種するものとす、大抵下種後一週間乃至二週間にして發芽す其生長四五寸に達せし頃、手入れをなし除草及び間引をなす、其距離は凡五六寸乃至七八寸の間にあり、此の如き事一ヶ月二回より三回に至る、其漸く長して三尺內外に達せる頃は發育の最も旺盛を極むる時とす、而して白露及び秋分の頃即ち九月中旬に至れば穀實成熟して穗色又變す、此時に至りて刈入に着手す、稈の成長は地質及び氣候の差異によりて大小一樣ならずと雖、其短きは四五尺より長は一丈を出る者なり其收穫の方法も地方により多少の相違ありと雖大抵は株元より五六寸乃至一尺の處にて切取り、束ねてこれを圓錐狀或は圓筒形を作り、穗部を上部にて立てゝ畑に放置して乾燥せしむ、大抵五六日を經て自家に搬入して穗部を切取るものとす、或は農塲に於て先づ穗部を刈り切りて然して後運搬するものもあり、其切斷したる穗部は之れを庭內に堆留し黍稈を以て之れを蔽いて保存す、大抵初冬農事終了して閑散となるの頃に至りて穗を庭上に擴げ連枷を以て叩くか或は馬匹の力を籍り農具機械を用ひて穀實を脫粒せしむ、然る後塵芥を去り穀粒を精製して、麻袋に入れ或は黍稈を以て作れる圍內に貯藏するものとす

高粱は養料品以外其效用甚だ多く眞に東三省に於て缺くべからざる重要農產物たり或者は以て我國の米に比するものあれども實用使途の多端なる決して米麥などの企及し能ふ所にあらず、先づ其實は食物として日常の膳に上すべく、又は造酒原料として一種の燒酒を釀造するを得、又其稈は建築材料として家屋の天井又屋根等を造るに用ひ又土壁の骨組となし橋梁の用材に充て、更に腰掛け凳等の如き器具を作るべく加之焚いては薪炭の代用をなし炊事を便し或は暖を取りて以て寒氣を凌ぐべし加之之れを細斷して交ゆる大豆及び麥等を以て牛馬の飼料に充つる事を得べきなり且輓近に至り黍稈を原料として紙類を製造するの方法發明せられたりと云ふ、我儕は決して其虛說にあらざるを信せんとす、此の如く効用使途の多岐多方面なる實に米、麥及び竹の三者を兼ねて有するものと稱すべし

東三省に於ける高粱收穫の總額は例により統計の信ずるに足るものなきを以て其確を知るに由なしと雖、全滿洲千五六百萬人の常食たると其燒酒の原料として消費さるゝものと右兩種の輸出さるゝ者とを合算して推察するに、大抵千七八百萬石に達すべし、又偉ならずや

高粱の收穫は、其耕作地の土質及び氣候の關係より耕作の巧拙勤惰によりて、大に其程度に大小あるを以て總括して云難しと雖も、大抵各地にも大豆を間作し新民屯、通化及び懷仁等最も肥沃なる地方にありては一晌地十石に及ぶものありと云ふ、勿論是等は例外にして大抵七八石より少きは四五石に至る、先づ五六石を以て普通となし又一晌地下種の量も地味の如何と農夫の巧拙によりて大に多少を異にするものなり、大抵少なきは五升多きは一斗五升に達す、平均して一斗前後とすれば蓋し大過無かるべし

高粱の炊き方は略ぼ米と同じく先づ能く磨いて鍋中に入れ之に略ぼ四倍の水を加へて一時間餘煮て後に食料に供す

仁川金融統計表

四十年上半期(自一月至六月)

(仁川日本人商業會議所調)

△送金、荷爲替其他

公金送金

	仕向高	被仕向高
一月	一七、一三三	二二三、四二四
二月	五、二三五	八一、六七九
三月	二一、〇四九	四〇、六四六
四月	三〇、〇六九	三八、二八一
五月	一〇四、五一五	四九、三四五
六月	五、二一四	四六、五六〇
計	一八三、二一五	四七九、九三五

人民送金

	仕向高	被仕向高
一月	一、二八九、九二八	四二四、七九五
二月	八七六、三六一	四八七、四八四
三月	八四〇、一八二	三四四、八五〇
四月	一、〇三七、一二三	五九一、六七八
五月	八七七、九九八	五〇三、三四三
六月	九九三、七八一	六三五、三三二
計	五、九一五、三七三	二、九八七、四八二

荷爲替

	仕向高	被仕向高
一月	四四八、五八三	一六二、〇五六
二月	三四七、一〇七	七三、九〇八
三月	四六〇、七八八	一二六、三〇七
四月	三九六、〇一八	一六六、七一二
五月	三九〇、五二二	一九一、四〇五
六月	五四一、二二五	一二七、二一二
計	二、五八四、二四三	八四七、六〇〇

割引及代金取立

	仕向高	被仕向高
一月	八二七、二八〇	二四六、〇九五
二月	四九六、〇三七	一九七、〇四八
三月	三四三、四二二	二一〇、四五六
四月	四一〇、三五四	二八〇、九七一
五月	三六七、三二八	二六七、四二〇
六月	四一三、一四〇	二七〇、六九六
計	二、八五七、五六一	一、四七二、六八六

計

	仕向高	被仕向高
一月	二、五八二、九二四	一、〇五六、三七〇
二月	一、七二四、七四〇	八四〇、一一九
三月	一、六六五、四四一	七二二、二五九
四月	一、八七三、五六四	一、〇七七、六四二
五月	一、七四〇、三六三	一、〇一一、五一三
六月	一、九五三、三六〇	一、〇七九、八〇〇
計	一一、五四〇、三九二	五、七八七、七〇三

△預金取扱高

公金預金

	預り高	拂戻高
一月	一四、一五八	一〇、九三五
二月	一四、一九〇	一〇、八五三
三月	六〇、二七四	二七、七五四
四月	一一六、八二四	六六、七二〇
五月	五、〇七七、七九三	一三三、一〇〇
六月	四二三、二三七	三一八、九九七
計	五、七〇六、四七六	五六八、三五九

定期預金

	預り高	拂戻高
一月	六三、五〇八	二四、八八八
二月	四一、一五〇	六、七〇〇
三月	一五、六七四	一八、六六〇
四月	七、〇四五	三一、三〇六
五月	一七、三二三	六、六七三
六月	二五、五九三	一〇七、六三〇
計	一七〇、二九三	一九五、八五七

當座預金

	預り高	拂戻高
一月	四、二九二、七六四	三、六一五、〇八五
二月	二、七五八、二四一	二、八〇二、八〇二
三月	二、七七九、七三五	二、六一五、四六〇
四月	三、〇〇五、五七〇	二、九〇一、二四八
五月	二、六一一、一六九	七、五六四、八八〇
六月	二、七九四、九六四	二、五七六、八九三
計	一八、二四二、四四三	二二、〇七六、三六八

雜種預金

	預り高	拂戻高
一月	一三四、五三五	一〇五、二一七
二月	八六、二四一	八〇、九五八
三月	四四、五〇九	四一、五四九
四月	二六、九三九	三一、五一三
五月	五四、七二一	四三、四三七
六月	一四二、二二九	一二二、五三二
計	四八九、一七四	四二五、二〇六

計

	預り高	拂戻高
一月	四、五〇四、九六五	三、七五六、一二五
二月	二、八九九、八二二	二、九〇一、三一三
三月	二、九〇〇、一九二	二、七〇三、四二三
四月	三、一五六、三七八	三、〇三〇、七八七
五月	七、七六一、〇〇六	七、七四八、〇九〇
六月	三、三八六、〇二三	三、一二六、〇五二
計	二四、六〇八、三八六	二三、二六五、七九〇

△貸付金取扱高

貸付金

	貸出高	回收高
一月	九〇二、五一四	二七三、〇四六
二月	四八二、七六七	三一四、〇〇一
三月	三四四、四五二	三六二、八八七
四月	五六二、八九一	四七〇、八七四
五月	二九一、八〇一	三六七、六六七
六月	四〇三、七九四	四二二、四三八
計	二、九八八、二一九	二、二一〇、九一三

當座貸越

	貸出高	回收高
一月	一、六二八、七三八	一、三六一、五五〇
二月	一、一二七、六三四	一、一四〇、一〇八
三月	九五三、九九四	一、一四二、九〇六
四月	一、五〇八、七〇八	一、四九三、二〇三
五月	一、四五五、〇二四	一、三二三、三一六
六月	一、三一七、〇六〇	一、四六一、七八七
計	七、九九一、一五八	七、九二二、八七〇

割引手形其他

	貸出高	回收高
一月	一、七九三、四三二	一、一二三、四九八
二月	一、一一九、六九七	一、一一六、八六一
三月	二、四六九、一六三	一、二三六、八六五
四月	一、一三一、二〇三	一、〇八八、六四六
五月	一、四七三、五七四	一、四三四、九〇四
六月	一、二一五、九五三	一、一八八、一九二
計	九、二〇三、〇二二	七、一八八、九六六

計

	貸出高	回收高
一月	二、四六〇、〇一七	二、七五八、〇九四
二月	二、七五〇、〇九八	二、五七〇、九七〇
三月	二、九一四、六一二	二、七四二、六五八
四月	三、二〇二、八〇二	三、〇五二、七二三
五月	三、二二〇、三九九	三、一二五、八八七
六月	二、九三六、八〇七	三、〇七二、四一七
計	一七、四八四、七三五	一七、三二二、七四九

文苑

水後郊村　沒名學士

夜深一嘯躍魚龍、十里江村激浪衝、歸鶴當年塔悵惆、山門仄了數株松。

得齋藤君書有此作

煙雨遥層樓、惹愁雁來夕、雁來心却怡、帶君書三尺、言々出肺肝、字々看胸赤、時賢漸凋殘、兒輩空瘦瘠、跳梁姦徒充、侮蔑屈辱亦、塵埃依舊深、行間惑染怕、吁嗟乎君蒲柳宛婦女如、然神勵金石、紅涙猶來乾、孤帆千里隔、江山眼底明、又記提劍逆、展卷折之運、夜闌燈不惜。

戀の歌の中に　渡邊鷹峯

少女子が衿にかざれる玉うづらかけても人をれもふころかな

わがために橋をわたさむ人もがな水嵩ましたり戀の中川

小說

絃のみだれ(二十六)

永井　櫻圖

澄み渡つた寒さうな月が、薄化粧した下界の萬象を照らす、十六夜の三更近い頃であつた、新橋の橋際で電車を降りて、凍てきつた鋪道をカラコロと行く、若い男女の兩個がある。博品館横を土橋に出て、濠端傳ひ虎の門の方向を差して歩むのである。男は二重トンビに白の襟卷を絡ひ、薄鼠に黒の飾を着けた中折帽子を冠り、女は小豆色のお高祖頭巾を被つて、淡オリーブ色の肩掛を纏ひ、何分夜の事で確とは分らぬが、瀧縞の綿入に絣の羽織を着て居る。深更の事で流石の都大路も殆んど人影が絶ゑて、時偶町を隔てゝ歩く下駄音が寂寥を破つて聞ゆるばかりである。すると二三十歩隔つた後から、黒の二重トンビを着てカムロットを冠つた脊の小高い男が、雪駄穿の足音を偸むやうに、兩個の跡を尾けるのであつたが、兩個は更に氣附く樣子もなく、肩と肩との摺合ふまで、直と推列んだまゝ、語らひつゝ歩むのである。



「何うしたつて那麼に永く出て來なかつたんだ、私はモウ先に歸つて了つたかと思つた。」

と、男が云へば、女は

「それがさ、まあ聞いて下さい斯う云ふ譯なのです、お師匠が贔負になつてる方ださうですが、是非私とお師匠とを何處かへ連れて行くと云ふのでせう、だもんですから、お師匠が私にも一緒に往つて呉れいと仰やるんです、けれど私は其處所ぢやない、貴方が待つて居て下さると思つて今晩は宅に客がありますので、お父樣がお師匠樣に願つて、成たけ早く歸つて來いと云いましたから、折角の御親切ですけれど今晩だけはと斷つたんです。すると其お客が大層不機嫌で、お師匠に可厭味を言ひ出したんでせう、ですからお師匠は、大切な客だから些と顏だけでも出して、それから歸つて呉れと賴まれる、それでもとはお師匠に對して斷られないし、眞箇私奈何爲やうかと困つて了ひましたの……ですけれど貴方に遠い所を來て貰つて、歸には……と固々約束して置きながら、何程お師匠の賴でも然う云ふ理には行かないと思つて、無理無体に斷つて漸く出掛たもんですから、それで那麼に遲くなりましたの、今夜のやうに辛い目に逢つた事ありませんわ。」

「然うか、そりや氣の毒だつたね、無理に斷つたりなんかして、お師匠の機嫌が惡かアなかつたか。」

「いくらか惡さうでしたけれど、那麼事は言つて居られないから、後でお詫やうと思つて、管はず出掛ましたの、感心なもんでせう。」

と、莞爾笑へば、突如に横町で

「鍋燒うどん―。」

と、呼び出したので、兩個は覺えず

「たゝ喫驚した。」

と、聲を揃へて言つたが、男は

「モウ十二時近くだらうが、何處かで温い物が食べたいもんだ、鳥屋でも火を落さずに居れば可いがね。」

と云ひつゝ、時計を出して月に照し

「まだ十一時半だ、大丈夫だらう……しかし其客と云ふのも、清ちやんの商座に出たに首ッたけと云ふ熱心家だらう、呼々心配なもんだ。」

東京電報

▲韓太子の謁見

韓皇太子には十六七日頃我 兩陛下に對顔の上豐明殿に於て御會食ある由なるが太子には未だ御幼年の事なれば陛下には御思召を以て小なる椅子を新調あらせらるべしと漏れ承はる

▲所謂密使の所懐

嚴妃の密使趙某外四名は韓國皇太子に對する日本の優遇を感じ神戸より大阪への汽車中にて日本は韓國に敵意なし皇帝陛下の御來遊あるも安全なりと語たり

▲廣西の暴動

清國廣西省暴動に付き南清警備艦秋津洲浪速の兩艦當方面に急行せるが英國砲艦二隻も出發せり(以上十三日發)

▲韓太子奉迎の壯觀

十五日午後韓國皇太子着京の際は文武百官の外近衛步兵第三聯隊同第四聯隊野戰步兵第十四聯隊近衛軍樂隊步兵第二聯隊第一聯隊輜重兵第一大隊は新橋より芝離宮迄整列し近衛步兵一個中隊は日比谷にて皇禮砲を放つ筈なり

▲韓太子御入京期

韓國皇太子は十二日午前九時五十分京都を發せられ名古屋ホテルに御一泊十五日東京御着の御豫定なり

▲報聘大使着京執奏

報聘大使完興君の一行は十二日東京着の旨執奏ありたき旨十二日午後十時報聘大使より宮内府へ電報を發せられたり

▲倫貝勒の退京

清國答禮大使一行は本朝九時退京せり伏見若宮殿下以下多數の見送人ありたり

▲南米移民の有望

南米移民漸次有望に付智利國に公使館を設置するの議あり明年度豫算に計上して來期の議會に提出せらるべし

▲兵營顚倒す

一昨夜强風の爲め篠山聯隊步兵二個中隊の兵舍全部顚倒し負傷者十九名を出せり

▲麥作實收高

本年の麥實收額は二千二百十七万石にして前年に比し百八十万石(八步八厘)平年に比し二百六十五万五千石(一割三步三厘)の增收なり之れ本邦未曾有の收穫なりとす(以上十二日午後發)

各地電報

▲一進會員殺さる

本日北靑郡守發の電報によれば北靑と厚峙嶺間の泥谷面に暴徒來り一進會員三名を射殺したりと(十三日咸興發)

雜報

韓太子京都御着

韓國皇太子の一行は十一日午前九時二十分舞子を御發車あり同十時十三分大阪驛御着井上第四師團長其他官民の奉迎を受けさせられ同十八分京都に向はれ同十一時十分宮廷列車の京都驛に着するやプラットホームには大森京都府知事三好陸軍中將馬場第十九旅團長正木第三十八聯隊長石川宮澤兩聯隊區司令官其他伏見深草駐屯の各部隊將校五十餘名華族總代藤川京都區裁判所長本願寺法主島田六角兩事務官西郷市長以下京都市職員市參事會員府會議員其他百餘名整列して奉迎申上げたり太子には宮内府より差廻されたる馬車にて伊藤統監同乘し他の隨員一同は人力車に分乘し儀仗兵二個中隊前後を警衛し旅館たる京都ホテルに入らせられたり御道筋には各學校生徒及び第三十聯隊の各中隊等奉迎し市中には各戸日韓兩國旗を掲揚し奉迎申上げたりといふ

皇太子從行者の眞相

日本留學は韓國青年の夙に希望する所にして朴昌根の息前參奉朴容泰(十七)侍從朴容淑(三十八)前領事朴容求(三十)の三名は豫て嚴妃に對し日本留學を請願しつゝありしが先頃皇太子の御留學あらせらるゝに就き太皇帝は深く御焦慮あり去る九日侍從朴容淑を召され皇太子は海陸の險路無事到達せりや安心し難ければ汝を問安使として日本に遣はすべければ汝の二弟も此際渡日すべしと命ぜられ十日京城を出發せり張浩鎭の息前主事張築準(二十)朴弘錫の息朴齊根(十六)秦濮晟の鬼秦璈睦(十六)李容復の息重睦(三十)金永振の息奎植(十五)同甥寬植(二十)も夙に嚴妃に運動中なりしが之れも太皇帝より日本に留學して陰ながら皇太子を保護すべしとの勅命ありしも行李を調ふるの暇なきを以て來る十六七日頃嚴俊源の日本に出發の際同行すべしと因に嚴俊源は元植の妻たる娘を連れ行かれ剩さへ俊源の名にて密かに一千三百餘圓を借り入れたる爲め債主は俊源に向つて督促を成し之れが爲め出發際期の如くならずさいふ

嚴妃の迷夢未だ覺めず

韓太子御遊學に關し嚴妃の心痛一方ならず茶洞居紅蓮と稱する巫女に金三万圓を與へ豐德郡德物山に太子安泰祈禱の爲め立籠らしめたるのみならず又慶尙道榮川居金商五(六十)は二十歳の変より祈禱術を學び千万里外の吉凶をもトふべしといふを信じ東署避馬屛門金弘澤方に潛伏せしめ毎日一度宛兵士鄭龍文を遣はし祈禱を爲しめつゝありと

官制發表近きにあり

韓國大臣側の抗議によりて先き程來行き惱みつゝありし官制は曾根統監代理の盡力によりて愈々解決するに至り本日形式的の上奏をなしたれば一兩日の中發表せらるべし

●軍司令官叱責　軍司令官長谷川大將は目下地方騷擾を極むる際郡守に欠員多きは甚だ不都合なりとて内部大臣任善準氏を叱責したりと傳へらる

鎭海灣軍港に關する告示

内部大臣任善準氏は昨日の官報號外を以て鎭海灣軍港に關する告示を發し軍港地域内にて外國人に土地家屋其他不動産を賣却交換讓與典當又は許可し貸渡すことを禁じ更に左の告示を發したり

一 右圖(圖略す)に記したる細黑線内の地域を海軍砲射擊場(洛東江口孫浦)射界用地とし其周圍に標石を樹立す

二 韓國政府は射界用地内に將來家舍の新築改築其他射擊の妨害となる一切の設備を爲すことを禁ずる事

三 左の條項を韓國政府より關係地方人民に告示する事

射擊を行ふ時は開始一週日前に關係地域内に告示す

陰曆二三七及び八月の射擊時間は日本時午前八時より午後五時迄とす

射擊時間中は射界内に出入するを禁ず但日本時正午十二時より午後一時迄を限り通行を許可することあるべし

射擊施行日には七點山頂孫浦砲床地其他必要の場所に白旗を掲げ射擊時間中は別に赤旗を揚ぐ

佐竹男晩餐會

曾禰副統監秘書官佐竹義準氏は來る十六日京仁各新聞社の代表者を招待し花月樓に於て盛大なる晩餐會を催す由なり

危險の送別

前宮内府顧問加藤增雄氏は先日來滿洲旅行中なりしが數日前當地に歸り近日内地へ引揚げらるべしとのことなるが右に付某々氏發起して昨十三日氏の爲に送別會を亟眞樓に開きたりと云ふ因に右發起人中には昨年七月韓人某を使嗾し加藤顧問攻擊の公開演說を獨立館に於てなさしめたる某も混じ居りと云ふ左とは危險千萬なる送別ならずや

教育會評議員會の決議

一昨日午後六時より日本人倶樂部に於て三浦理事官の催されたる京城教育會評議員晩餐會は既報せし如くなるが同晩餐後評議員會を開き左の事項を協定したり

一 役員改選の件

一 教育雜誌發刊の件

一 教育倶樂部設置の件

一 教育會に究查部を設置し委員五名を常設して教育上の諸問に應じ又は調査を爲し其結果を教育倶樂部の常集會に報告する事

一 從來教育會の附屬事業として經營し來れる夜學校は都合によりては之を善隣商業學校に依托する事

因みに教育倶樂部は自今毎月一回適當の場所に開催教育上の意見を討議し又は名士の講演を乞ふ筈なりと而して教育會の總會は來る一月中旬頃之を開催する由なり

●仁川教育會　本日午後二時仁川民役所樓上に於て仁川教育衛生會を開く順序左の如し

一、會長開會を告ぐ
一、會務の報告
一、役員選擧
一、議事
一、君が代
一、會長の告辭
一、講話演說
一、會長閉會を告ぐ

尙ほ講演者は三土學部參與官、和田觀測所長、松村仁川病院長の三氏なりと

●東洋協會釜山委員部　桂候を會頭に推せる東洋協會は韓國に會務を擴張し日韓人士中重なる者の贊同を促がし事業の大成を期せんが爲め先頃來各委員に於て會員取纏め中なるが釜山委員部にては總山委員長石原民長其他官民重なる者數十名率先入會し統監府内韓國支部に報告する所ありたり

暴徒煽動員出發

奇山面金東弼は義兵煽動の爲め慶尙道元安東地方に赴きたりと士民間に傳へらる

頑冥不靈度し難し

金浦方面に於て路傍に暴徒の檄文を貼付し又は民家に配付せり其頑冥憐むべし其全文左の如し

憐むべし我が韓國の現狀を思ひなば豈寒心ならざらんや二千万の同胞一身同體國を守り民安んずるは人道當然の義務たるに聞く金浦は國を思はず鼠の如き日人に付隨し税を星火の如く督促すと税は取立てゝ國庫に入るゝと思ふや日本人を汝等は父や祖父と思ひ捧げつゝありや收捧したる面長稅務官及書記は先づ燒殺すべく又巡檢李興泰は如何なる蠻なれば日人に符同し人民を壓制するや之れ日人の種子ならずや分派所は久しからず屠戮すべし民は安心し驚くなかれ金浦は數人(耶蘇を差す)等多數なれば之れ謀り先づ務めよ國のために焉ぞ座して天國に行くを望まんや噫國を思へば夜は眠る能はず坐せば汗出でゝ背を濕し涙は雨の如く面を洗ふ寒心痛歎の極ならずや必ず進步すべき道を講せよ若し聽かずんば倭賊を刺し軍刀を以て一邑皆血を見るに至らん

丁未十一月　日　義兵大將　李某　書

長蛇を逸す

揚州郡四老里附近の暴徒討伐に向ひたる野村警部及堀警部の一行は暴徒を挾擊するの目的を以て二隊に分れ一隊は正面より一隊は背面より一昨晚未明同地を包圍せしに賊は既に遁走して隻影を認めず已むなく一部隊を派遣して追跡せしめ他は悉く引揚げたりといふ

暴徒郵便物を掠奪す

黃海道海州島田警視の電報によれば九日信川を距る一里の地に於て同所より海州へ發送の郵便物を暴徒に掠奪されたりと

賊三百の襲擊

去る十二日全羅北道全州よりの電報によれば昨今求禮郡甘泉に暴徒三百餘名集合し右求禮分派所を襲擊準備中にて日本人一人殺害せられたり

宣諭使の報告

暴徒鎭壓のため地方に出張せしめたる宣諭使李舜夏、洪祐晳、金重煥等は去る十日夜李舜夏方に於て茶話會を開き内部官吏等を招待して出張中の報告をなして曰く我等一行は暴徒鎭壓に就て極力盡瘁する處あり我等義兵を解散せしむるの策なきあらざるも日本の兵隊及巡查等が鎭壓の手段を誤り反つて一行の策を妨害して益々義兵をして旺ならしめ夫れがため我々宣諭使の功勞を發輝する能はざるは遺憾なりと主張せり

●長距離電話建議の回答　過日在韓日本人商業會議所聯合會に於て長距離電話增設の件に就き通信管理局長に建議のところ去七日池田局長より聯合會々長秋吉富太郎氏宛左の回答ありたり

承右は大体當方計畫にも一致し其必要を認むるところに有之候處工費の多額を要するもの多く帝國政府豫算の關係上早急に實施方難取運現狀と了知せられ度し尤も多額の工費を要せざる地點にして且つ當局豫算の範圍内にて差繰り得べき場合は進んで其計畫を遂行し公衆の便益を圖る可く併せて了承せられ度候

再び韓美電氣會社の都合に就て

韓美電氣會社が常に私利を圖り公利問題の如き更に眼中になく近來に至りて其の非行言語に絕するを以て吾人は屢々其の反省を促せしも彼の頑冥なる殆んど利慾の一點張にて益々暴狀を極むるといふ事實に由ると該會社に屬する發電所は東大門と龍山との二箇所にあり双方の發電機關に由りて僅に世間の需要に應ずる組織なるにも拘らず何處までも剛慾非道の本性を現はし此の双方を一時に發電すると燃料の費消高多額に上り利益減少するを以て双方を交互發電し一方を中止しをく結果として電力の供給は需用と一致せず遂に今日の如く各需用者をして不便不利を蒙しめ日に幾十回の停電を敢てして憚る所なく嚴談を申込ば支配人や技師や何れも責任の塗あひ競にて不都合とも無責任とも殆んど非難すべき辭を見出し難し萬一今後此の如き暴狀を敢てするに於ては之を公然の問題として領事に交涉するか又は會社に對して損害賠償を申出すか需用者の不平不滿は實に甚しとの事なるが吾人は會社に向て爰に警告を重ぬるが尙反省を見る能はずんば更に筆を改めて春秋的筆誅を加へん

京仁驛内運輸事務改善

小運送屋の陶汰
不正驛員の處分

目下在韓鐵道運輸事務の幼稚にして且種々の弊害あるは識者の認むる所なり而して右弊害は多く不正運送屋より胚胎し延びて停車場係員の瀆職となるもの多く其筋に於ても今日迄種々改善の道を講じたるも未だ何等の功果を見るに至らず依て其筋に於ては明治三十年萬國鐵道聯合會の決議に基づき運送業の制限を斷行する事とし且停車場内部の改善をなす事に決し過日小原事務官外一名は仁川商業會議に岡運輸部長は京城商業會議に出張種々協議する所ありたり其協議の要項左の如し

一、現在運送業者は京仁共に百名に近く何れも資本微弱にして貴重なる荷物を依托するに危險なるもの多く現に荷物の紛失毀損等頻々として多し故に先づ運送業者には一定の資格を設くる事

一、運送屋に對して月々定額の運送賃を納付したるものには割戻をなす事

等にして尙停車場貨物係等の改善は必要と認むる範圍に於てはドシ〳〵斷行する由以上の如く運送業者の營業に制限を附し從つて割戻の方法を設けて資本信用の薄弱なる不正運送屋の陶汰をなす筈なり兩商業會議所は果して右管理者の計畫を承認するや否やは別問題として兎に角吾人は今日の如く運送業の不整頓なる京仁驛の爲めに其斷行を望むものにして從つて停車場内係員中不正の徒あらば速かに徹戒ありたきもの也

在韓國帝國居留民教育及保育機關概況

本年十月末の調査に係る在韓國帝國居留民教育及保育機關の概況左の如し

教育機關の種類は夜學校を除き專門學校商業學校高等女學校及小學校の四種とす專門學校は東洋協會專門學校の分校にして本月一日新に開放せらる目下生徒數三十八人講師十八人學級數一とす商業學校は釜山に一校あるのみ甲種程度にして本年一月指定を受けり生徒數百十一人教員十二人學級數四とす高等女學校は指定學校としては釜山に一校あり此生徒數百十八人教員十三人(内女教員五人)學級數四とす京城及び釜山に同程度と認むべき私立女學校各一を有す此生徒六十四人教員十八人(内女教員九人)學級數五とす以上三校合計生徒百八十二人教員三十一人(内女教員十四人)學級九とす小學校は總數五十三校にして内高等科のみを設置するもの一、尋常科のみを設置するもの十九、兩科を併置するもの三十三とす民團立小學校は大邱及び龍山を除き悉皆指定學校にして此數十一に達す兒童總數七千三百七人(内女三千三百八十八人)教員數二百十一人(内女四十三人)總學級百七十七とす以上教育機關學校數五十八生徒七千六百三十八人(内女三千五百七十八人)保育機關としては五箇の幼稚園を有し幼兒四百六十人(内女二百二十三人)保姆助手十五人組數十一とす以上學校幼稚園の總數六十三校生徒兒童八千九十八人(内女三千七百九十三人)教員二百七十九人(内女八十六人)(右の外京城仁川釜山に私立夜學校各一あるも之を省く)各機關の詳細なる統計は之を別表に揭ぐ(別表略す)

●太陰曆廢止　韓國學部にては隆熙三年度より太陰曆を廢し太陽曆を用る豫定の由

●仲介社の新設　志村作太郎氏の設立計畫中なりし仲介社は韓國開發上有益の機關なるべしとのことなるが今回一切の準備整ひたるを以て近々發表せらるゝなるべしと聞く因に同社營業主任は元萬朝特派員たりし岡與一氏なりと云ふ

●財政整理報告　目賀田顧問の本年上半年に於ける韓國財政整理報告書及び同附屬圖は印刷中なりし所今回出來せしを以て昨日夫々配付されたりと云ふ

●荻田書記官　統監府書記官荻田悅造氏は曾て大學卒業の際 陛下より名譽銀時計の恩賜を受けたる秀才なるが今回三重縣の富豪堀内氏の女利子の君と華燭の典を擧げられたる由なり因に荻田氏が堀内氏の令孃と婚約を結びたるは昨年の事にて兩者の媒酌は兒玉伯爵なりしと云ふ

●米原慶助氏　當地滯在中本紙に執筆助勢したる都新聞特派員米原慶助氏は[illegible]歸京し目下東京四谷區荒木町七番地の自邸に在り

●衛生組長慰勞會　熊谷民長は來る十五日午後六時より巴城館に於て各衛生組合長を招待し一年中の慰勞會を開く筈なり

●觀測所職員の行賞　今回の戰役の功に依り統監府觀測所職員にして行賞されたるは左の如し

勳七等瑞寶章	百圓	勳八	沖　圓吉
勳八等瑞寶章	百廿圓		大笠　弘毅
同上	同		日詰　忠宗
同上	百圓		金田　彌作
同上	同		小川　儀太郎
同上	同		山崎　保
同上	同		美添　讓一
同上	同		田中　半四郎
同上	八十圓		香川　槐三
同上	同		八木　發太郎
同上	同		入江　信介
同上	七十圓		瀧田　愛季
同上	同		鈴木　五男八
同上	六十圓		山本　熊治
同上	同		大内　末治
同上	五十圓		海野　太郎
同上	廿五圓		永峰　治定
同上	同		高島　正義
同上	同		佐伯　正新

▲治外法權▼

馬關砲擊以來外國人とさへ云へば偉らい者と思つて居る伊藤統監が何事にまれ外國人の言分なれば唯々諾々なるは當然の事である、此呼吸を知拔いた米國大使を通じて我外務省へ抗議を持出した、手古摺つたのは外務省[illegible]くなつたのは統監府、問題は今に決せず甲山は宙にブラツイて居る、が結局コールブランの物になりソウである▲一体コールブランが主張する甲山に對する同人の權利なるものは己に昨年統監府が所謂空權と見做して取消した幾多の日本人が同山に對して有せし權利と同樣の性質のものである、日本人の權利者は悉く叱り飛ばして緘口せしめ只一のコールブランには特別扱ひとは何樣統監府の御了簡がわからないのである▲云ふまでもなくコールブランは日本人ではない、彼は馬關砲擊に與つた米國の市民である、米國人、外國人之等の二語は伊藤公の耳に異樣に響くのである、否或場合に於ては公を驚ひ揚らしむるに至るのである、之が乃ち藤公が世界の伊藤であつて日本の伊藤でなく一コールブランを扱ふにも大に意を用ゐらるゝ所以である▲我在韓居留民が何か統監府に出願すれば直ちに却下の厄運に逢ひ何か申出せば直ちに叱り飛ばさるゝとは余輩の屢耳にするところであるが、これは十萬の同胞が米國人でない罪であつて決して統監府が惡いのではないのである▲茲に於て余輩は我同胞の爲に左の一策を獻するのである、ソレは何事によらず統監府を威かすについて外人の名を用ゆることである、詳敷云へば何か出願するなら外國人の名義を利用することである、何となれば外人と云へばヂョンでもチャリでも穢多でも非人でも伊藤公の尊重を値するからである、我居留同胞諸君、余輩の策を納れ着々成功の途に登るべきである。

朝市めぐり

一記者

京城名物の朝市……ヌツト起きたが六時半見聞を廣くするが記者の任務と心得たが因果、マント引掛け曉の霜を踏んで……ダガ行つて見ると却々趣味が多い、幾多の商人がズラリと店を列べて、吾先きにと競爭して居る所も見事であるが、又顧客の種類がいろ〳〵であるのも面白い……マント、鬢高帽、中折、洋服、法被、股引穿き、丸髷島田、銀杏返し、二百三高地……と雜然拉然だ。

▲奥さん氣張んなせね　二匹で五貫、廉いもんぢやありませんか、奥さん氣張んなせね、ナニ小人數でも魚ア今腐りません……四貫た情ねね、宛るで原が取れねねや、ダガ朝口だ、ウン好し負けとけ、た待ちなせね……と奥さんは巾着より四十錢を魚屋に與へたが、マヅ其の吾妻コートに、少し古びた肩掛を纏ひ、チミな束髮に結つた恰相は、何處から見ても安官吏の細君としか見わぬテ。

▲負けなくツて　五十錢は高價いワ、三十錢に負けなくツて……ソレでは此平打の方は如何程、ナニ一圓ですツて、ちや矢ツ張之に仕やうかしら、ダガ、ルビーが惡いワネーと、那れを見、是れを冷見かした揚句終に一物をも求めずして立ち去つたが、親爺後を見送りながら獨言、淫賣の癖に生意氣な尼だ、五貫の指輪も買へねね癖に、東京辨たあ聞いて呆れら、山口縣あたりのドン百姓奴。

▲卵オルマ　ヨボ、卵オルマか、ナニ、日貨二十錢と、馬鹿言へ、十錢チヨツンだ、ソレでは十二錢遣ると、自分で極めて金を與へ、將に持ち去らんとすや、ヨボの奴、アンデと叫んで後追ひ驅け取り戻さんとする刹那、朝鮮人の癖に生意氣なといふ言と共に、鐵拳一下、横顏をポカリ、ヨボの奴可愛相にも、アイゴと悲鳴を擧げて大地に泣き伏した。

▲極りが惡るそうな　髯丈は立派だが、着物はまことに御粗末、眞岡木綿の三ツ紋に去年から取ツトキの汚なき頸卷を卷きたるさまは、大方た役所の雇位の所であらう、先生サモ極り惡るさうに、牛肉一斤を購ひて懷に隱した所はよかりしも、今度は芹二把を買つた始末に困ツたらしく、と言つてチゲクンに頼む程の物でもなし、已むなくあたりをキヨロ〳〵見ながら、片側傳ひに歸り行く有樣は多分一人者で朝と辨當のお菜にするであらうよ。

▲奥さん氣取り　朝市丈は奥さん氣取りか世帶思ひの風を裝ひて、少し許りの直段の事を兎や斯う言ひ、コレでも奥さんと見ねはせぬかと森振に出す下女の淺間しき心根……八百屋の小僧ツレと悟つてか悟らぬかは知らねど『ソれでは奥さん十錢引きますイエ大負けだ』と言はれし時の嬉しさうな顏は、何と言はふか譬へやうのない程、主人より渡された金ながら態と紙幣を取り出して『ソレでは之れで』と言ふ氣前の好さ振り、ダガ、其の生姜のやうな手丈は成るべくズツと出さぬやうにして。

●親子の慘死　當地水票橋通りに昌記號事余炳生といふ淸國人あり賣藥を業とし目下其の商業の爲め日本へ行きて留守中は其の妾なる熊本縣天草生れの中村ダイ(三十)と去る先々月生れし男子と兩名が不自由なく活計居たりけるが昨日午前十時頃其の同縣人にて懇意なる髮結サクといへるが來り見れば其の彩室なる溫突より煙りが出で居るも呼べど叫べど答へのなきのみか異臭紛々と鼻を衝くより只事ならじと連れ來りし韓人をして其の溫突の障子を毀はさしめ見れば煙りは室内に滿ちて火の燃ゆるにぞ急ぎ水打ちかけて倚ほ能々室内を見れば憐れ親子二人は窒息して慘死を遂げ居れるより赤門巡査派出所に急報し間もなく警察署より出張して檢視すると原因は置炬燵の火が蒲團に燃ゑうつり夫れが爲めに窒息せしものゝ如くダイの右腕は既に燒けて骨のみ殘り嬰兒は仰向に斃れたるまゝ絶命し居たりと

●他人の森林を賣り飛ばす　當地中署校洞從二品吳正根は從來忠淸南道稷山郡大井里の或る森林(墓地)を所有し居りしが玆に吳鶴根なる者が該森林を利用して一儲けせんと善からぬ量見を抱き自已の所有と僞稱して松の木十萬本を明治町一丁目十二番地新炭商河村治平に代金一萬二千圓にて賣却せしより同氏は此程之が伐採に着手せしに墓守は之を見て大に驚き直ちに其旨を前記吳正根に通知せしに吳正根は之を聞て非常に怒り早速先方に掛合ひ目下紛紜中なりと

●巡査を遊廓に誘ふ　去る十三日午前三時頃某巡査が旭町二丁目を警邏の際横丁の軒下に一人の男の佇立するより夜更けて人の往來も絶たる頃斯る所に佇み居るは怪しき奴と提灯さしつけ何用あつて其所に居るやと訊ぬると男は傲然として尋ぬる者あつて來りしも其の人が居らぬ故に困つて居るのだ君巡査なれば戸籍簿を持ち來りて僕の尋ねる者の所在を敎へて呉れ……何じや派出所へ往けさソンナ案さうなことを言ふな新町へ行つて一杯だうだ……僕の名前か何でもよいワ兎に角一所に散財に行かうと跆跟めく足を踏み占めて巡査の手を捉らんとするより巡査は醉漢と思ひ程能く待遇へば益々つのりて果は亂暴に及べるより引き捕へて警察署に連れ歸り醉の醒めるを待つて取調べて見るさ岩手縣平民にて目下京城南山町一丁目西川方に寄留せる煉瓦職重茂平治(四十)といふ飲だくれなりしより說諭の上放免せられたり

●醉漢の亂暴　本町警察署の倉野巡査が昨日午前二時頃明治町一丁目を通行の際本町通より二人の醉漢が高聲に放歌しつゝ來るより例の如くヲイ〳〵と呼び留めこれを訓戒め去らしめたるに二人の醉漢は又もや同町巡査派出所の前に至り罵詈的放歌を爲すを以て誰何せしに己樣を誰と思ふのだ勿體なくも大日本帝國の臣民だヨボの巡査に咎めらるゝ義務はないなどゝ抗辯し果ては兩名が腕を捲つて摑みかゝりしより居合し山中巡査と共に引つ捕へて警察署へ連れ歸り取調べて見ると本町二丁目を鎌田半六の雇人理髮職熊本縣八岩下嘉七郎と明治町一丁目理髮職熊本縣人太田善吉の雇人岩永熊一といふ者にて何れも泥醉中なりしより說諭にて放釋せられたり

無情强欲　（四）

ミヨは犬畜生とまで言はれて無念なる方なれど不沙汰の罪我にあれば逆らひもならずよよと泣き伏し妾が惡いですよ勘忍して呉れ俤し貴方のた宅を兼々心がけて探して居るのは眞實ですよ御恩は決して忘れないのですよと只管に詫び入れどくもはこれを鼻で待遇ひみよさん旨いことといふ子五月も六月もかゝつて私の宅を尋ねて分らんなんてソリヤ誰にいふのだエ憚ながら米倉町で中元といへば名まで言はずと人に知られた興當局でオンドル住居のことなんかとは少しは違ひますヨ眞實に尋ねる氣なら民團役所へでも警察署へでも一寸往つて聞けば直ぐ分るのだヨ自分が勝手に滿洲三界へ飛び出して樂な時には手紙もよこさぬ不心得の女と思へど病氣と聞いては捨ても置けず大枚なれ金を送つてやつたが今見る所では病氣揚句とも見へず察する處此の男と道往きがしたさに妾を瞞着した狂言であつたらうヨシ狂言さした所が眼と鼻の間近に來て一篇の挨拶にも來ぬといふ恩知らずが妾の姪にあるかと思へば殘念で〳〵ならぬから今日は一談判なる覺悟で來たのだヨ此所の野良間男は何所の馬の骨か牛の肉か先づ夫れから聞かして貰ひませうさべらくいいと喋り立て返答次第で嚙み付きもせんづ權幕に久米八も身震ひなし持らし鉋を投げ棄てゝくもの前に平伏し初めてれ目に掛りますが仰せの次第一應御尤至極と存じますみよや私が不束から御無沙汰も致しましたが御堪忍遊ばして貧しき私どもが親族とあつては御顏にかゝることも有ませうから表向出入の者とでもいふことにして御交際下さるやう只管れ願でござりますと言へばみよも涙を押し拭ひ何事もみんな妾が惡かつたでのことで夫れにも色々仔細もあれば追つて緩々申譯もせんが兎に角今日は機嫌直して下されと夫婦俱々天窓を下げて詫び入ればくもは益々附けあがりヘン此の寒空にそんな言譯を聞きに來る馬鹿な伯母ではないよ私はれ前を連れに來たのだ否が應でも連れて歸るのだと睨みつけたり

●郵便局の掏摸　去る九日午前十時頃南大門通三丁目の井筒市平が京城郵便局に至り用事を爲す際上衣の隱しに入れ置きし財布(在中金十一圓)を掏り取られしが警察署の探偵によりて其の加害者は慶尚道大邱生れの金相國(十八)なること發覺し被害金の內若干は手戻せしといふ

●泥棒の名刺　過日來當地旭町一丁目村田才三の工事場に積置ある石灰の減少するが如く思はるゝより其の番人に訊ねて見ると毎日一人の韓人が名刺を出して持ち歸るとのことに其の樣のことのあるべき筈なしと論し置きたれば去る十二日も例の如く韓人が名刺を持ち來りたるより引つ捕へて吟味すると西大門內に居住する李萬世(四十)と稱する橫着者なりしと

●又も荷車でた炙　明治町一丁目煙草商鹿兒島縣人湯之口貝治は荷車を道路に橫へ置たる廉にて二十錢の科料に處せられたり

●天然痘●●●　壽町三丁目五十六番戸大分縣平民女髮結工藤キク(二十)旭町四丁目森安工場内福岡縣平民大工岩谷和喜治(二十)の兩名は何れも十日天然痘に罹りキクは阪井病院に和喜治は隔化病院に於て治療中なり

●丸一洋反物店の大賣出　本町三丁目の丸一洋反物店にては歳暮賣出しとして十五日より大割引を開始すといへば店頭の繁昌嘸かしと思はる

●篠崎商店の大賣出　本町一丁目の篠崎雜貨店にては景品附歳暮大賣出しをなしつゝあるが仲々の好景氣にて大景品を引當てたるものも少からずと

廣告